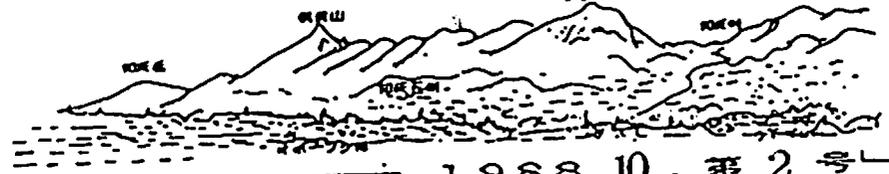


知床の森から



1988.10.第2号

親子森林レク

自然とのふれあい満喫

九月二十五日、親子で知床の森林と山岳を訪ねる機会を作り、そのすばらしさにふれていただくとうと、分取育林のオーナーの方々へのサーブিসとともに、一般の方の参加を得て「親子の森林レクリエーション・知床」を行いました。

参加者は総勢三十七名で、五歳のぼうやから七十歳のおばあさんまで、カムイワッカの湯の滝と知床硫黄山新噴火口までの登山と森林浴を楽しんでもらいました。険しい山道で母親の手を引く子供、荷物を持つ子供と、親子が助合うなごやかな姿がありました。

噴火口から噴き上げる蒸気、荒涼とした自然景観に驚きの声を上げていました。お楽しみ時間には、勢いよく噴き上げる蒸気でのゆで卵作りでは「お母さん、これまだ生だよ」との声や、雄大な自然のパノラマを見ながら、お母さんの手作りの美味しいお弁当をほおばる子供達、真赤なコケモロの実に口を染める人など、十分に自然を満



新噴火口で噴き上げる蒸気をバックに参加者記念撮影

喫した一日でした。参加者から「楽しい一日でした。次の回も必ず参加させてください。」との御礼の言葉があり、私たちに与って初めての試みだけにほっとした一日でした。

しれとこ産葉まつりに参画 知床国有林を楽しく紹介

十月二日の「第九回・しれとこ産葉まつり」に、知床国有林の紹介と知床森林センターのことを、町民にPRしたいと思ひ参画しました。

知床半島の動物の写真パネル、ヒグマ生態のビデオ放映、航空写真を用いたの半島景観箇所の立体視、また、ミズナラ大径木輪切り材に可史を記入して展示など盛り沢山、航空写真を初めて見た人は「すごい！知床師が手にとるように浮び上って見える。飛行機から見ているようだ」と、多くの人々から感嘆の声があげられました。

また、二百六十年の輪切材展示には「江戸時代から生えていたの」「一年にこれしか生長しないの」「どうして年輪をささむの」などの質問が数多くあり、にぎやかな一日を過ごしました。なかでも直径六十八センチのセンノキの年輪当てクイズには、百名以上の応募があり、正解者には木製の記念品を贈り



知床国有林の紹介コーナーで航空写真立体鏡を覗く人々

わき立ちました。また、同一スペース内では北見地区木協青年部の協力で、ミニログハウス等の展示が行われ好評を得ました。そして、その売上げの一部は緑と水の森林基金に協力いただきました。この様な地元各種行事に今後とも積極的に参加し、広く国有林のPRを行っていかうと考えています。

知床このころ

○ 秋も深まり、紅葉は十月中旬をピークに、知床の山々を美しく色づけています。ヤマブドウ・コクワ・ドングリ等の作物は、今ひとつといったところですが。

○ 知床国有林、ウトロに設けられている開設野営場は、六月中旬から九月下旬までの供用期間が終了しました。その間に八千四百人という多くの利用者で賑わいました。利用者数は最近のライダー等の宿泊形態の変化（ライダーハウスの増加）から、昨年に比べ一割程度の減となっております。

○ 本年度の利用状況を踏まえ、来年度は更に多くの方々に、快適に利用していただくよう努力して参りたいと考えております。
○ 知床森林センターでは、現在皆さんの「知床によせる想い」を綴った論文の募集を検討しています。